

# 資源状況等調査集計及び資源管理計画等作成指導業務 「資源回復計画推進事業」主要漁業種に関する調査研究

住友寿明・吉見圭一郎

国民への水産物の安定供給を図るため、計画的な資源管理に取り組む漁業者を対象とした「資源管理・漁業経営安定対策」が平成23年度から水産庁で始まった。本事業の骨子は、漁業共済の仕組みを活用した資源管理・収入安定対策と、コスト対策を組み合わせた総合的な経営安定対策の構築である。徳島県は漁業振興を図る観点から、当該事業の実施に必要な「資源状況等調査集計及び資源管理計画等作成指導業務」の委託を徳島県資源管理協議会から受けている。

今年度は契約に基づいて、資源状況等調査集計業務（「主要漁業種に関する調査研究」、「資源管理に必要な情報提供事業」、「漁獲可能量の適切な管理事業」及び「その他の本業務の実施に当たり必要となる事業」）並びに資源管理計画等作成指導業務を実施した。このうち水産研究課は「主要漁業種に関する調査研究」及び「資源管理に必要な情報提供事業」を担当した。ここでは、主要漁業種に関する調査研究について報告する。

## 方法

### 機船船びき網漁業

機船船びき網漁業者による資源管理を促進するために、次のとおり調査及び情報提供を行った。

#### シラスの漁況調査

シラスの漁況予測の精度を向上させ、資源管理を促進するために、次の調査を行った。

#### 1. 代表漁協のシラス漁獲量集計

紀伊水道の代表1漁協（以下「代表漁協」という。）の瀬戸内海機船船びき網漁業におけるシラスの漁獲量を月別に集計した。

#### 2. 代表漁協のシラス類の重量組成

代表漁協の標本船1隻が漁獲した漁獲物のうち、無作為に抽出した10～30g程度の標本を70%エタノールで固定した。これを、カタクチイワシ、マイワシ、ウルメイワシ及びその他の生物に分別し、それぞれの重量を測定した。

#### 資源管理に関する情報提供

太平洋長期漁海況予報と瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報を水産研究課ホームページに掲載するとともに、関係漁協にファクシミリで送信した。また、広域かつ高頻度の漁海況情報をインターネット上の専用ホームページで提供した。

### 小型底びき網漁業

播磨灘の小型底びき網漁業者による自主的な資源管理の取り組みについて、その効果及び影響を把握することを目的とした。操業実態の把握及び重要魚種の資源動向について次のとおり調査した。

平成17年度の告示改正でマンガ漁法と板びき漁法の解除期間延長が成された際、ヒラメ、カレイ類、ウシノシタ、マダイを関係県（徳島、香川、兵庫、岡山）の共通指標種に設定した。徳島県では、イボダイ、スズキ、コウイカ類（コウイカ、シリヤケイカ）も独自指標種として追跡調査を行い、これら魚種のCPUE(kg/日・隻)と各期毎の出漁日数（日/月）の推移を解析した。

今回の調査では、播磨灘における小型底びき網漁業の代表として、漁獲集計システムを導入している北灘漁協を用いた。連続性のあるデータを採取するために、平成15年1月～平成26年11月において、漁協への受託出荷を継続して行っている3経営体を標本とした。

## 結果及び考察

### 機船船びき網漁業

#### シラスの漁況調査

#### 1. 代表漁協のシラス漁獲量集計

平成17～26年における代表漁協のシラス漁獲量を図1に示した。平成26年の漁獲量は、平成17年以降最も漁獲量が多かった前年を大きく下回った。とくに7月以降の漁獲量が少なかった。この原因のひとつとして、夏季に台風が接近し、まとまった降水がみられたことが影響したと考えられる。

#### 2. 代表漁協のシラス類の重量組成

代表漁協における標本船の漁獲物の重量組成（%）を図2に示した。平成26年は、平年（平成17～25年平均）と比べマイワシやウルメイワシが少なかった。このことも漁獲量が低迷した原因のひとつと考えられる。

#### 資源管理に関する情報提供

太平洋長期漁海況予報を年3回（7月、12月、3月）提供した。瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報を年2回（4月、6月）提供した。また、水産総合研究センターが管理するホームページ「沿岸シラス最適漁場探索支援システム」に漁獲情報を提供した。これによって、広域かつ高頻

度の漁海況情報を漁業者等に提供した。

### 小型底びき網漁業

1～5月は桁網あるいはビーム、6～12月は板びきによる操業が行われる。漁獲金額に占める割合の高い6～12月が主漁期である。周年を通じて出漁日数(日/月)とCPUE(kg/日・隻)に大きな変化はなかった(図3-1, 3-2)。アカシタピラメは1～5月によく漁獲され、それ以外の時期では漁獲されない(図4-1)。年毎のCPUE(kg/日・隻)の増減が大きい魚種で、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される。メイタガレイは1～5月によく漁獲され、それ以外の時期はごく少ない(図4-2)。CPUE(kg/日・隻)に大きな変化はなく、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される。マダイの漁獲は周年みられるが、6～12月に比較

的によく漁獲される(図4-3)。資源水準は低位、動向は横ばいから増加傾向と判断される。イボダイの主漁期は6～11月で、それ以外の時期は漁獲されない(図4-4)。年毎のCPUE(kg/日・隻)の増減が大きい魚種で、資源水準は低位、動向は横ばい傾向と判断される。スズキの漁獲は周年みられるが、とくに12月に板びきで多く漁獲される(図4-5)。CPUE(kg/日・隻)に大きな変化はなく、資源水準は中位～高位、動向は横ばい傾向と判断される。コウイカは6～12月によく漁獲され、1～5月はごく少ない(図4-6)。資源水準は低位、動向は減少傾向と判断される。なお、標本漁船はシリヤケイカ専用の網具を使わないため、シリヤケイカの漁獲はみられなかった。

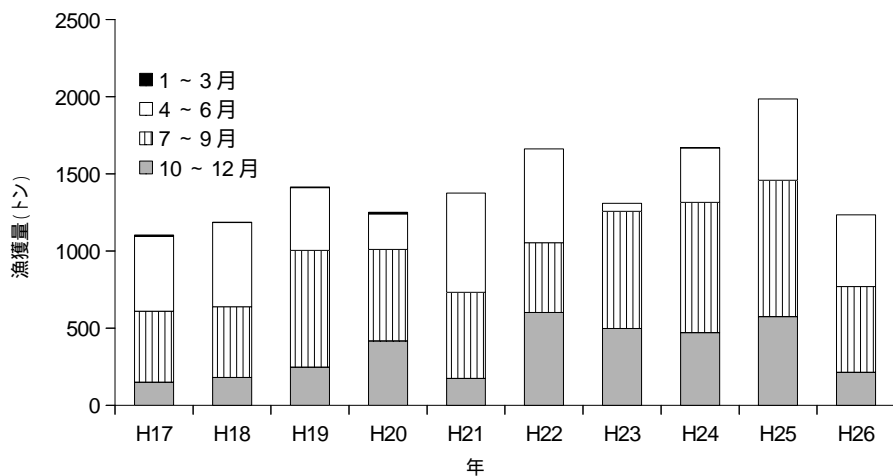


図1. 平成17～26年における代表漁協のシラス漁獲量

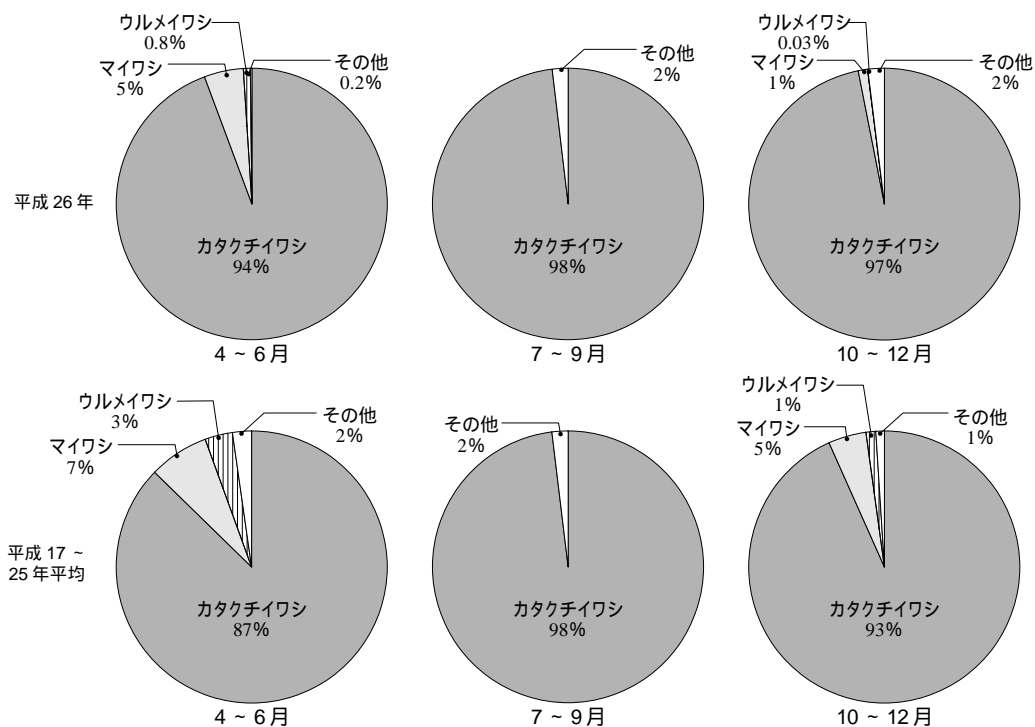


図2. 標本船の漁獲物の重量組成 (単位：%)

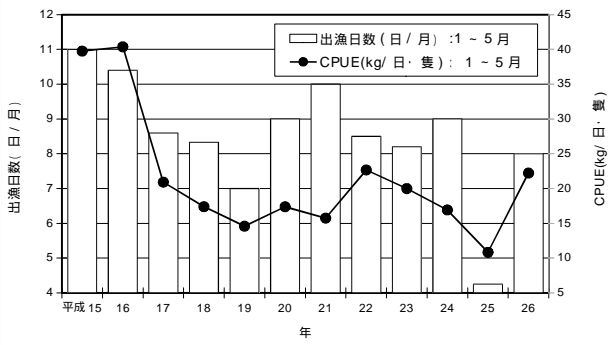


図3-1. 1～5月における北灘漁協に所属する3隻の小型底びき網漁船の出漁日数とCPUEの経年推移。漁法は桁網あるいはビームによる。

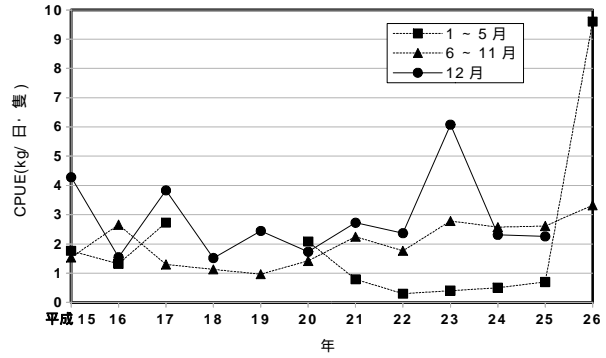


図4-3. マダイの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

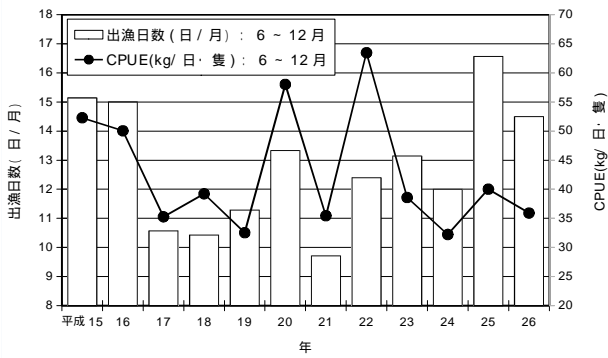


図3-2. 6～12月における北灘漁協に所属する3隻の小型底びき網漁船の出漁日数とCPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

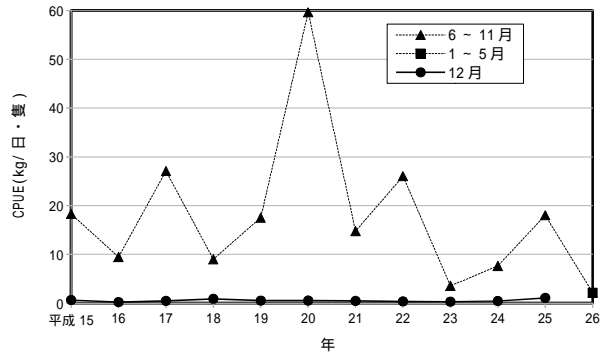


図4-4. イボダイの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

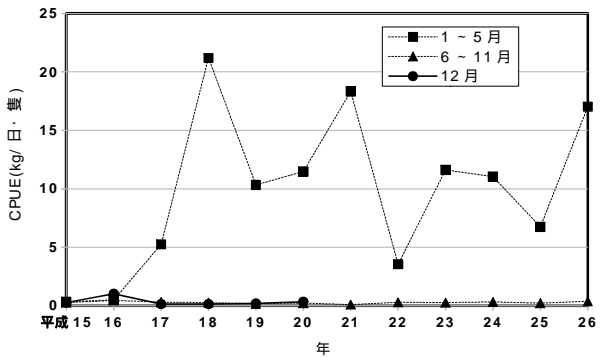


図4-1. アカシタピラメの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

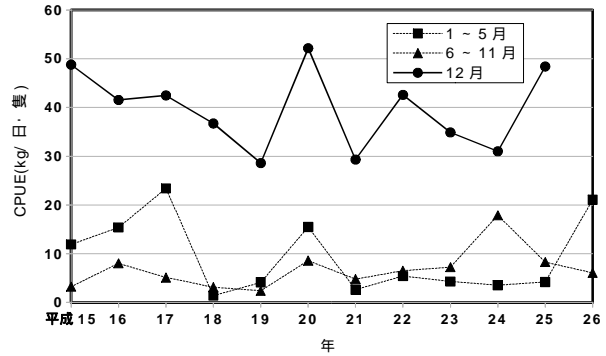


図4-5. スズキの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

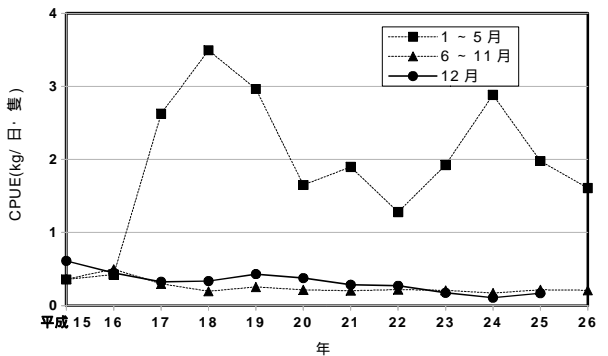


図4-2. メイタガレイの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

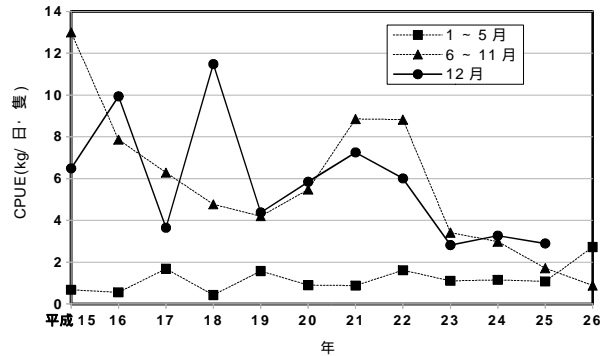


図4-6. コウイカの期間毎CPUEの経年推移。ただし、平成26年12月の水揚げ集計データは欠測。

